

あなた用サブリ 薬局が支えます



津市の調剤薬局「健やか薬局上津部田店」は、来店者の健康状態に合ったサブリメント（栄養補助食品）を紹介する独自のサービスを始めた。薬価の引き下げや店舗数の増加で業界の競争が激化する中、健康管理も支援することで他店との差別化を図る戦略だ。

（吉川翔大）

津 薬剤師、栄養士が助言

同店では管理栄養士も働いており、薬剤師と連携して利用客の健康相談に応じている。サブリメントは三十五種類あり、イチヨウやシソ、マグロなどの食品から抽出した栄養素を摂取できる。利用客が食生活や睡眠、運動の現状に関するアンケートに答えると、最適な組み合わせをコンピュータが算出。栄養士や薬剤師と相談しながら最終的に購入する商品を決められる。

五月に開店したばかりで、サブリメント紹介サービスは八月から始めた。現在は体形が気になる人など、病気でない人が申し込む場合が多いという。栄養士も常駐するので、食生活に関する助言も受けられるのが特色だ。同店で管理薬剤師として働く菊地紋嘉さん（二七）は「住民のニーズはあるので、これからも応えていきたい」と話した。

最適なサブリの組み合わせなど

健康状態に合ったサブリメントを紹介する
菊地さん＝津市の健やか薬局上津部田店で

を算出するシステムは、デザインサブリ（東京）が開発した。店舗では二月から使い始め、関東から関西までの薬局が導入している。県内では同店が初めてだという。

調剤薬局が本業の処方箋への対応以外に力を入れる背景には、業界に吹く逆風がある。高齢者の増加に伴う医療費の膨張を抑制するため、厚生労働省は薬価の引き下げを進めている。全国の薬局数もコンビニを上回る五万八千店に上り、販売競争も激しい。病院の近くで営業する「門前薬局」の収益だけでは、経営が厳しくなる見通しという実態もある。

健やか薬局など県内で約二十店舗を展開するメディカルリンク（松阪市）の樋井慎取締役（四三）は「決められた薬を渡すだけでなく、健康に関する正しい知識を届ける役割を担いたい」と話す。管理栄養士を配置する別の店舗での紹介サービス開始も検討しており、「常日ごろから健康について相談してもらい、生活習慣病の予防にもつなげていきたい」と意気込む。